

北海道の販売農家数は、2010年に44,050経営体から2020年には34,913経営体に減少、一方、農業法人は3,034経営体から4,047経営体と増加、規模拡大による労働力不足が続き外国人研修生による労働力を頼っているところが多い。

地域農業者の雇用要望時期が春耕起と収穫期に集中し、JA等では農閑期の選果事業での需要があるが圧倒的に需要期が集中している。繁忙期の労働力不足を補うため、北海道と鹿児島という異なる繁忙期を有する地域を活用した、労働力を確保する取組みとしての産地間連携を行う。

事業実施主体構成員
(株) 北海道グリーンパートナー

協力機関・連携先等

- ※連携先
 - ・大崎農園(鹿児島)
- ※関係機関
 - ・浦幌町大根生産者
 - ・JA忠類(忠類大根生産部会)
 - ・(株)北海道ベジオス

設定した成果目標・目標に対する進捗状況

①産地の労働力需要に対する充足率

▼設定した成果目標

・事業開始時の充足率

鹿児島産地85%⇒90%、北海道55%⇒65%

▼R7.2末現在の進捗状況※概算

鹿児島県産地 約90% (大崎農園抽出による概算)

北海道産地 約62% (HGP抽出による概算)

令和6年度取組み内容

今年度の取組み内容

ア 労働力の需給状況の把握(地域の状況及び労働力提供可能な者の把握等)

本年度は新たに労働力状況の把握等の取り組みは実施しないものの、昨年の調査結果を考察すると、まさに、北海道グリーンパートナー及び連携する大崎農園が実践する、産地間連携による労働力の融通及び供給が地域のニーズにマッチしていることを確認した。

これら他産地との連携による労働力確保の取組みの継続と拡大により、地域の需要、要望に対応すべく作業種目の多様化、及び、労働力の増員を実践し、地域の農業経営体との連携と産地の維持の貢献に努めた。

具体的には、ブロッコリー契約面積の増加、白花豆、ラワンブキの管理作業など作業種目の拡大、また、5名の労働力を増員。

イ 産地内での労働力確保・育成

2024年10月から5か月間、求人サイト「ジョブアンテナ北海道」を開設。

(2月末実績:応募数2件、成立数0件)

今年度の取組み内容

ウ 他産地・他産業との連携による労働力確保

- ・だいこんの収穫時期（7～10月、12～2月）に他産地の鹿児島と連他産地との連携による労働力の確保、繁忙期の異なる産地（株）北海道グリーンパートナーと（有）大崎農園で、それぞれに雇用する特定技能外国人を融通する。
繁忙閑散期の異なるエリアからの労働力7名・3名の受入れを実施。
- ア 募集する労働者の居住地（出発地）：鹿児島(夏季)・北海道(冬季)
- イ 労働場所（目的地）：北海道(夏季)・鹿児島(冬季)
- ウ 宿泊場所：社員寮・社宅・借り上げアパート
- エ 募集条件：
【夏季】7月上旬から10月下旬、JA浦幌内大根選果場、JA忠類内大根選果場を起点とする周辺圃場
労働内容：大根収穫作業・各農産物収穫作業・大根出荷場にて選別作業
【冬季】12月上旬から2月中旬、大崎農園大根選果場を起点とする周辺圃場
労働内容：大根収穫作業・各農産物収穫作業・大根出荷場にて選別作業
- オ 技術力向上：大根選別作業は目視であり、技術的に人材のスキル向上がコスト低減に繋がる。
周年化の選別作業が可能となり技術力のアップが必要であり、これを可能にしている人材交流。

エ 労働力等のマッチング及びデータベース化

記載事項なし

オ 農業の「働き方改革」への取組

働き方改革への取組

- ・鹿児島県、北海道での農作業への対応、安全な職場環境を維持する為に労災、安全衛生管理等をテーマ
講師：社会保険労務士行政書士 嶋谷耕治先生、6月29日 66名参加
- ・全従業員を対象として、今後の事業説明と作業効率化をテーマ、10月27日 87名参加
- ・職場、労働環境改善に向けた打合会を、直接雇用従業員を対象に6月11日11名、6月25日4名の参加
派遣従業員を対象に5月31日5名、6月21日5名、6月24日5名、11月2日5名の参加
- ・2月18日鹿児島、翌19日は熊本に派遣中の従業員と、派遣先での個人面談、作業状況確認、会食会を開催

本事業取組みにおける成果項目

1 北海道⇄鹿児島での連携体制の強化

鹿児島・北海道での大根出荷周年供給体制を取組んでいる大崎農園(鹿児島)との連携を通じ、流通販売面として加工業務実需者・量販店との契約販売も行ってきた。

・さらに労働力確保の面においても協調関係にあり、これら難易度の高い連携から、多岐にわたる業務提携、新たな体制整備に向け発展段階に進んだ。

2 連携による副次効果として実現した雇用

・この連携を起点として繋がった人材紹介を行っている企業から、人材を紹介され、特定技能1号と面談、直雇用としてR6年度15名入社。

インドネシア、フィリピン、ミャンマー、カンボジアの内訳。
・R7年度、特定技能2号5名を採用、さらに秋以降2名の採用手続き開始予定。

3 新たな連携先の模索の開始

・今年度の事業期間において、北海道⇄鹿児島での連携強化にとどまらず、新たな産地間連携の取り組みとして、北海道グリーンパートナーを核として福井県の(株)レイトベースフクイ、熊本県の熊本大同青果への労働力提供を図った。

4 販路拡大への取り組み

・出口対策も並行する課題で、各産地との産地間連携による生産量の増大に伴い契約による販路拡大を進めた。

次年度以降の取組み内容

①左記に続き、「1 北海道⇄鹿児島での連携体制の強化」について、両社の得意分野及び経営資源を活かした業務連携体制の構築、人的資本及び生産・流通販売などを有効活用した業務連携契約を締結し、大根出荷周年供給体制による日本一の取扱高のグループ企業体を構築する。

②「2 連携による副次効果として実現した雇用」の体制整備として、2号については、自動車や作業などの各種免許資格の取得、永住権取得を想定した住宅や生活インフラなどの整備、また、作業以外のコミュニケーション能力が必要なことから、N1資格所得者の採用と社内の語学研修の開催などで《言葉の壁》を乗り越える対応を実行する。

③「3 新たな連携先の模索の開始」に記載した福井、熊本その他、宮崎県の(株)穂と連携、農繁期の異なる産地間での労働力確保に向けた情報収集・協議を行う。さらに、昨年試験的に取り組んだ(有)徳之島南西サービスとの生産者間の労働力の相互融通の拡大も実践したい。
・これら、人材の確保として異なる繁閑期に人材を融通できる体制を画策。現状の試験段階から進化を目指す。

④「4 販路拡大への取り組み」として、R6年度より首都圏に居住する営農や商流の専門知識を有する人材を採用し、地の利と知識や高度なスキルを活かし既存取引先との拡大はもとより、新規販路の拡充を図っている。

繁忙期の労働力不足を補うため、北海道と鹿児島という異なる繁忙期を有する地域を活用した、労働力を確保する取組みとしての産地間連携

事業実施主体構成員

(株) 北海道グリーンパートナー

※関係機関

- ・浦幌町大根生産者・JA忠類（忠類大根生産部会）
- ・(株)北海道ベジオス・大崎農園(鹿児島)

実績値（目標値）

< 確保する労働力の目標値（令和6年度末に達成度を計測） >

北海道産地における求人の充足率を 40 % から（令和 5 年度） 55 %
鹿児島産地における求人の充足率を 80 %（令和 5 年度）から 90 %
に上げる

< 令和5年度末現在での進捗状況(概算) >

【北海道】充足率58.8%（20 / 34人のうち）※HGP抽出による概算

【鹿児島】充足率87.5%（28 / 32人のうち）※大崎農園抽出による概算

令和 5 年度取組み内容

今年度の取組み内容

ア 労働力の需給状況の把握（地域の状況及び労働力提供可能な者の把握等）

- ・12月から3週間程度の期間で、北海道の浦幌地区と忠類地区を対象に、労働力状況に関するアンケート調査を実施。（ 38 / 200通 回答）
- ・経営方針として、54%が「現状維持」を、33%が「事業拡大」をしたいとの意向があるようです。【別紙参考資料 図2-1-4】
- ・労働力に関して、60%が「時期的に労働力が不足」と回答しており、「ちょうどよい」が33%、「常に不足」が5%、「余裕がある」が3%でした。
また、不足理由としては8割以上が「時期的に農作業が集中する」ためと回答していました。
不足理由の補足として「雇用後すぐ離職する」「応募が無い」といった人に関する理由は0でした。【別紙参考資料 図2-2-2】
- ・コントラクターの利用に関して、70%が「常に利用」又は「労働力不足の時だけ利用」と回答し、「利用の予定はない」が24%、「今後利用の可能性が
ある」が3%、「無回答」が3%でした。【別紙参考資料 図2-3-1】

イ 産地内での労働力確保・育成

- ・10月から2か月間、求人サイト「マイナビ」で人材を募集。
（実績：応募数 1件、成立数 0件）

【別紙参考資料】 アンケート調査結果

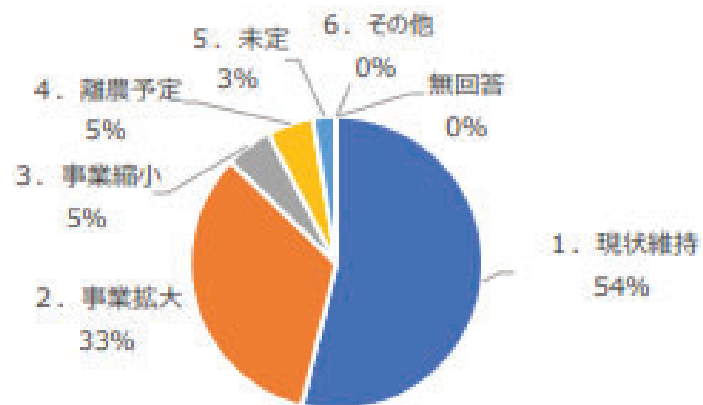


図 2-1-4 経営方針 (問 4)

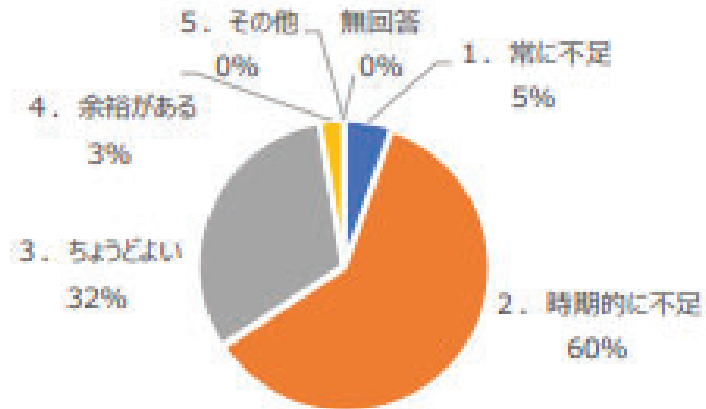


図 2-2-2 労働力について (問 10)

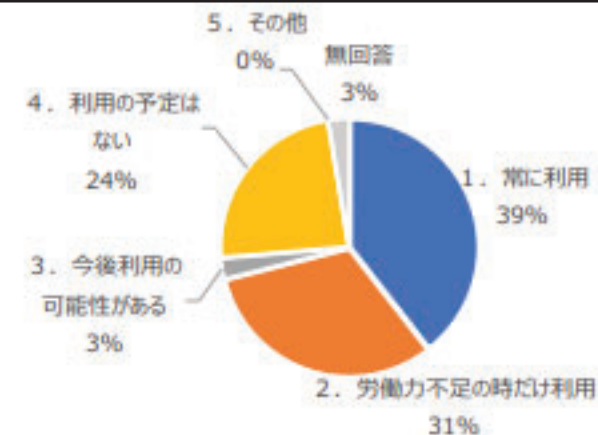


図 2-3-1 コントラクターの利用 (問 14)

今年度の取組み内容

ウ 他産地・他産業との連携による労働力確保

- ＜他産地と連携した労働力確保＞
- ・だいこんの収穫時期（7～10月、12～2月）に他産地の鹿児島と連携し、繁忙閑散期の異なるエリアからの労働力16名・5名の受入れを実施。
- ア 募集する労働者の居住地（出発地）：鹿児島(夏季)・北海道(冬季)
- イ 労働場所（目的地）：北海道(夏季)・鹿児島(冬季)
- ウ 宿泊場所：社員寮・社宅・借り上げアパート
- エ 募集条件：
- 【夏季】7月上旬から10月下旬、JA浦幌内大根選果場、JA忠類内大根選果場を起点とする周辺圃場
労働内容：大根収穫作業・各農産物収穫作業・大根出荷場にて選別作業
 - 【冬季】12月上旬から2月中旬、大崎農園大根選果場を起点とする周辺圃場
労働内容：大根収穫作業・各農産物収穫作業・大根出荷場にて選別作業
- オ 技術力向上：大根選別作業は目視であり、技術的に人材のスキル向上がコスト低減にも繋がります。周年化の選別作業が可能となり技術力のアップが必要であり、これを可能にしている人材交流です。

エ 労働力等のマッチング及びデータベース化

特に実施無し

オ 農業の「働き方改革」への取組

- ・特定技能1号に対し「大根選別に関する話（2023年7月、9月、2024年1月、2月）」を開催し、大根選別の総評や注意点に関するレクチャーを行った。（40～50名参加）
- ・特定技能実習生・日本人社員へのより手厚い福利環境の為、都度ヒアリングを行った。

本事業取組みにおける成果項目

1 北海道⇄鹿児島での連携体制の強化

鹿児島・北海道での大根出荷周年供給体制を取組んでいる大崎農園(鹿児島)との連携の中で、流通販売面に及び、加工業務実需者・量販店との契約販売も行ってきた。さらに労働力確保の面においても協調関係にあるが、とりわけ難易度の高いこの労働力確保における連携を、本事業を通して本格的に取り組む事で、体制強化することに繋がった。

2 連携による副次効果として実現した雇用

また、この連携を起点として繋がった人材紹介を行っている企業から、南九州の人材を紹介してもらい、特定技能1号を面談、直雇用として今年より5名入社。

3 新たな連携先の模索の開始

今年度の事業期間において、北海道⇄鹿児島での連携強化にとどまらず、新たに熊本、宮崎、福井の農業法人・取引先と連絡を取り合い、人材の確保として異なる繁忙期に人材を融通できる体制を画策。現状試験段階に入っているところで、次年度での実施が現実的なところまで。

次年度以降の取組み内容

引き続き、「1 北海道⇄鹿児島での連携体制の強化」について、効率性や連携規模の拡大など、持続性をもった取り組みとして連携強化を進めてまいります。

また、「3 新たな連携先の模索の開始」に記載した熊本、宮崎、福井との新たな連携は、当産地(北海道)においてはもちろんのこと、連携先産地側にとっても大きな兆しであると認識しており、相乗効果により双方にとって実りあるものになるとともに、それが微小ながら全国への波及効果にもつながればと考えております。

■連携産地とのやり取り（通年）

- ・既存連携産地との取組推進
- ・新たな連携産地の開拓

■研修会・セミナーの開催（5～6月）

- ・労災、安全衛生管理等の講習会実施

■研修等の実施（11月、2月）

- ・連携産地の拡充に向けた取組
- ・連携産地での労働力育成

■その他（1月）

- ・求人広告掲載